

園だより

第4号 平成30年6月29日



ばんけい幼稚園



『小学校の窓』からばんけい幼稚園を見る

顧問 矢嶋一昭

4月に盤溪小学校からばんけい幼稚園へと移り、アドバイザーとして着任して2ヶ月間が経ちました。まだ、小学校の視点から幼稚園の視点への変換がままならない状態ですが、少しずつですが、「幼児教育で培うことは?」「ばんけい幼稚園のよさとは?」という見方考え方ができるようになってきています。

そこで、題名にもありますように、ばんけい幼稚園を『小学校の窓』から客観的に見て感じたことをお伝えしたいと考えました。

- ① まず、ばんけい幼稚園の園の方針です。園長先生の教育目標や重点を読み解くと、ある言葉が園のめざす方向へ一本筋が通っていることがわかりました。『関わり』です。

- ・豊かな盤溪の自然(動植物)との関わり
- ・異年齢の友達との関わり
- ・先生との関わり
- ・地域との関わり

ばんけい幼稚園ならではのすばらしい環境が子どもたちを意欲的や健やかな心を育てていくのです。それは、あるがままの盤溪の環境がお子さんに『いい関わり』を与えてくれているということです。環境が子どもたちを育てているということです。

たとえば、四季を感じさせる気温や風、鳥の声、青い空、いい匂いなど小学校ではなかなか感じ取れないことを日常で実感・体得できるのがばんけいの子どもたちです。

また、ばんけい幼稚園には、平らなところが少ない!それによって、「体幹」が鍛えられています。先日の円山登山でも多少駆けても、転んだりする子はいませんでした。日頃の園での生活が知らないうちに体を鍛えているのです。

- ② 次は、「午前中いっぱいや午後を使って」という『長いスパン』で子どもが遊べることです。「1時間目は算数でたし算、2時間目は体育でボール運動、次は…」という小学校のように時間で追われないのがいいところです。午前中いっぱい時間を使って野山の散策や砂遊びができるのです。そこから、得られる発見はたくさんあります。

こんなことがありました。ダンゴムシを見つけた子がオスカメスカ悩んでしまいました。すかさず、「矢嶋:はかせ」が教えようかと思いましたが・・・、玄関には「ダンゴムシ図鑑」があります。その子は、その図鑑で調べ始めました。その後、「体に黄色い部分があるとメス」ということを調べ上げていました。「関わり」の集大成ですね!



例年の年長さんの伝統の遊び「いすを使った折り返しリレー」では、メンバー決めで、子どもたちは時間をかけています。誰とグループを組むと早くゴールできるかで、なかなか遊びに入ることができません。ばんけいならではの異学年交流です!

このように、ばんけい幼稚園は、小学校前のお子さんの一生の大事な時期に貴重な原体験ができる、かけがえのないすばらしい場だと思います。そういうことが積み重なり、お子さんが大人になっても変わらない判断基準となる『心のふるさとばんけい幼稚園』が形づくられていくのだな、と思っています。